

会 議 録
-------

会 議 の 名 称	令和3年度（2021年度）第6回枚方市環境審議会地球温暖化対策実行計画策定部会
開 催 日 時	令和4年3月2日（水） 13時00分から 15時00分まで
開 催 場 所	市役所別館4階 第3委員会室
出 席 者	（WEB出席）麻生委員、今堀委員、岩井田委員、小野委員、小幡委員、小幡委員、加我委員、谷本委員、豊高委員、藤田委員、益田委員、安田委員（うち1名途中出席） （会場出席）大石委員、松田委員
欠 席 者	深町委員
案 件 名	【案件】 （1）第2次計画に位置づける施策体系と具体的な施策について （2）第2次計画の取り組み指標について （3）第2次計画の構成及び推進体制・進行管理について （4）今後のスケジュールについて
提出された資料等の名称	資料1 第2次計画に位置づける施策体系と具体的な施策について（案） 資料2 第2次計画の取り組み指標（素案） 資料3-1 第2次計画の構成（案） 資料3-2 第2次計画の推進体制・進行管理について（案） 資料3-3 第2次計画の各主体の役割・責務（案） 資料4 今後のスケジュールについて（案）
決 定 事 項	・本部会でいただいた意見等を反映し、次回部会にて、基本的な考え方を示す
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	—
所管部署（事務局）	環境部 環境政策室（環境保全担当）

## 審 議 内 容

### 1 開会

藤田部会長： 定刻になりましたので、ただいまから令和3年度第6回枚方市環境審議会地球温暖化対策実行計画策定部会を開催します。事務局から委員の出席状況の報告をお願いいたします。

事務局： 本日は、委員14名の内、12名のご出席をいただいております。従いまして、枚方市環境審議会規則第4条第2項の規定に基づきまして、本部会が成立していることをご報告申し上げます。本日はweb会議システムを使用しているため、画面に示している注意事項についてご確認をお願いいたします。1点目といたしまして、マイクにつきましては、発言しない時間はミュートにさせていただきますようお願いいたします。また、発言される場合は、マイクをONにいただき、お名前を言っていただいた後、ご発言をお願いいたします。2点目といたしまして、ビデオについてはONにさせていただきますようよろしくお願いいたします。ただし、通信が安定しない場合は、事務局からビデオをOFFにさせていただくようお願いすることがありますので、ご協力をお願いいたします。3点目といたしまして、接続に不具合が生じた場合は、再度、接続をしてください。それでも繋がらない場合は、事前にお知らせしている携帯電話までご連絡ください。

藤田部会長： ありがとうございます。本日、傍聴希望の方はおられますか。

事務局： おられません。

藤田部会長： わかりました。それでは、本日の議事を進行させていただきます。本日の部会では、「第2次計画に位置付ける施策体系と具体的な施策について」、「第2次計画の取り組み指標について」、「第2次計画の構成及び推進体制・進行管理について」、議論してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。  
案件に入ります前に、本日の資料の確認を事務局からお願いします。

事務局： 資料を確認させていただきます。

#### 次第

資料1 「第2次計画に位置付ける施策体系と具体的な施策について（案）」

資料2 「第2次計画の取り組み指標（案）」

資料3—1 「第2次計画の構成（案）」

資料3—2 「第2次計画の推進体制・進行管理について（案）」

資料3—3 「第2次計画の各主体の役割・責務（案）」

資料4 「今後のスケジュールについて（案）」

となっております。過不足はございませんでしょうか。

#### 【過不足なし】

藤田部会長： ありがとうございます。それでは、案件1「第2次計画に位置付ける施策体系と具体的な施策」についてのうち、まず、施策体系について、事務局からご説明をお願いします。

### 2 案件

#### 案件1「第2次計画に位置付ける施策体系と具体的な施策について」

事務局： 【資料1により施策体系を説明】

- 藤田部会長： ご説明ありがとうございました。ただいまのご説明について、ご意見等を伺いたいと思いますが、委員の皆様いかがでしょうか。
- 松田委員： 基本方針3の②「ヒートアイランド対策と緑の機能を活かした脱炭素型のまちづくり」に「緑の質の向上」とありますが、枚方市としては、もっと前面に緑を出してほしいと思います。保全というのが表に出ており、緑を増やすことに関することが少なく感じます。8ページにある取り組みも保全が主なものであり、質の向上についての記載は少しあるものの具体的にはないので、枚方市の特徴を活かすためにもっとアピールしてはいかがでしょうか。
- 事務局： これまでの審議会でも緑の重要性についての議論はありましたが、新たな緑を増やしていくのは現実的に難しいと考えています。しかし、市の特性として、東部の里山や淀川といったまとまった緑がある場所についてはしっかりと保全をしていくのが最優先にあると考えています。また、温暖化計画では、まちなか緑化でみどりの持つ効果を活用して温暖化対策の機運を高めていくことも重要であるということでこのような書き方になっています。もちろん、方向として、緑を増やすつもりがないわけではありませんが、この10年間で市としてまずやっていかなければならないことは、保全とまちなか緑化や、今あるまとまった緑の質を保つための仕掛けをすることがメインになると考えています。
- 松田委員： 増やすことが大変だということは理解します。緑の面積を増やさなくても、質の向上という部分で、CO<sub>2</sub>削減の観点で、よりCO<sub>2</sub>吸収量の多い樹木などに植え替えることも可能だと思うのですが、そういったことは書かれておらず、寂しいと感じました。
- 事務局： このあと説明させていただく施策で、大学や公共施設の一定のまとまった緑を確保できるところでは緑を確保したり、質も含めて協定を結ぶ方向性など、施策としては打ち出していきたいと考えていますので、このあと合わせて議論いただければと思います。
- 藤田部会長： この部会でも緑については議論が継続しているところではあります。今回、地球温暖化対策実行計画では、10年間で地球温暖化に係る排出量削減のためにそれぞれの部分でどのように目標をもち、策を考えていくべきかというところもあります。環境基本計画のなかではさらに緑の議論を進めていくなかで、枚方市の特徴に即した地球温暖化に向けての施策の展開において、緑というものをもう少し細かくみていく視点は今後必要ではないかという意見は、貴重なご意見だと思います。後ほどの資料で評価についての議論も出てくるかと思しますので、そのあたりも先生方のご意見を賜りたいと思います。
- 小野委員： 奈良市でも同様の議論を行っているのですが、既存の森林がこの期間中にどれぐらいのCO<sub>2</sub>を吸収するのか、それが太陽光発電に換算すると何kW分に相当するのか、ということに記載しておけば、森林の多い自治体であればPRになるのではないかと思います。既存の森林が吸収するCO<sub>2</sub>が太陽光発電何kW分かと書くといいのではないのでしょうか。
- 事務局： 二酸化炭素の削減効果を検討するときに、仮に市域全域が緑であった場合の吸収効果を計算したこともあるのですが、実際に削減が必要な量と比較するとかなり少なかったため、そこを前面に打ち出すのは難しいと考えました。ご提案いただいたように今持っている緑が維持されたとして、太陽光発電であれば何kW分の吸収効果を持つのかを示すのは可能だと思いますので、一度計算してみて、それを計画の中に落としこめ

るのかといことを含めて今後検討してみたいと思います。

小野委員： 奈良市でも同様の議論がされていますので、また情報共有をできればと思います。もう1点、再生可能エネルギーの導入にあたって、再生可能エネルギーは天候が悪いときは機能しないため、避難所等に利用することを考えると、利用できると思っていた電力が天候によっては利用できないということになりかねません。それを補完するものとして、コージェネレーションシステムをセットで導入するなどが他自治体の計画に記載されていますので参考にされてはいかがでしょうか。

事務局： 分散型電源を導入していくなかで、その中心が太陽光であることから、自然条件の影響を大きく受けるため、レジリエンスの強化にもつなげていきたいということで記載していますが、たしかに弱点ではあると思っています。各避難所では化石燃料ではない非常用発電機が若干あり、それを補完する形で、施設によっては太陽光と蓄電池が設置してあったり、今後EVを普及することにより移動式の蓄電池として活用することにより、太陽光でその場で発電できない分を一定フォローできる体制は考えています。ただ、コージェネ施設についても10年間の中ではひとつの選択肢として考えていく必要はあるかと思っていますので検討していきたいと思っています。

小野委員： コージェネ施設だけを推し進めるのではなく、蓄電池、EVによる電源の確保など選択肢は増えてきていると思いますので、様々な選択肢を入れていただければと思います。

藤田部会長： 資料1につきましては、次の具体的な施策についての説明と合わせて引き続きご意見いただきたいと思いますので、よろしく願います。続きまして、案件1「第2次計画に位置付ける施策体系と具体的な施策」についてのうち、施策体系と具体的な施策について、事務局からご説明をお願いします。

事務局： 【資料1により、具体的施策を説明】

藤田部会長： ご説明ありがとうございます。ただいまのご説明について、ご意見等伺いたいと思いますが、委員の皆様いかがでしょうか。

小幡委員： 施策体系については問題ないと思いますが、2ページの基本方針3の「②ヒートアイランド対策と緑の機能を活かした脱炭素型のまちづくり」において、緑のもつ機能を活かしてなどと記載されていますが、脱炭素の観点で、吸収源というのを打ち出した方がいいのではないかと思います。また、基本方針4の「①ごみの発生抑制とリサイクルの推進」において、「4Rを普及推進する」と記載されていますが、脱炭素化をめざすということですので、脱炭素を推進するといったように、目標が明確になるように記載いただいた方がいいのではないのでしょうか。その他、9ページについても、基本方針4「脱炭素化に向けた循環型社会の構築」のめざすべき姿に「資源が循環したまちづくりが進んでいる」と記載されていますので、脱炭素を推進していく視点で表現を補強してはどうでしょうか。

事務局： ご指摘いただいたとおり、めざす方向性を明確にできていない箇所もありますので、温暖化計画として脱炭素をめざすことや、緑についても吸収の視点も入れ込む形で次回に向けて修正を行っていききたいと思います。

加我委員： 議論になっている緑について整理をしておきたいと思います。8ページにおいて、施策の方向性と主な施策についてですが、主な施策を見ますと、「保全」と「まちなか緑化をはじめとする緑の創出」ということが2つ入っていますので、施策の方向性についても、「緑の保全」と「創出」ということを掲げてはどうでしょうか。もう1点ですが、施策の方向性で、緑の質の向上に向けて取り組むとあるのですが、緑の質の向上

について、今一度考え直した方がよいのではないかと思います。「東部地域の里山の保全のため、森林ボランティアの育成や、里山ボランティア活動団体への支援を行う」ことがなぜ必要なのかという点、樹林樹木の育成管理をしなければ繁茂してしまったり、高齢木だけになってしまったり炭素の吸収がなくなってしまうため、緑の質の向上が必要になってくると思います。里山らしく、健全な街路樹であるための緑の質の向上ですので、地球温暖化対策実行計画の中では、緑の質の向上ではなく、緑の保全やまちなか緑化の推進に止めておいてもいいのではないのでしょうか。

事務局： 施策の方向性において、緑の質の向上に取り組むという手段的な記載の仕方になっておりますので、めざすべき方向性が緑の保全や創出で、それに対する施策として、再度整理をさせていただきます。

加我委員： 施策の方向性に、緑がもつ「存在効果」「利用効果」「媒体効果」といった機能を活かすためと記載されており、緑の基本計画から取ってこられているかと思いますが、緑のもつ機能は炭素固定、気象緩和、景観形成等であって、そこから得られる効果が「存在効果」「利用効果」「媒体効果」です。効果と機能を混ぜて記載するのは、あまりよろしくないかと思います。緑が存在することによって都市環境の保全、生物多様性の確保、都市防災機能の向上等といった従来の「存在効果」「利用効果」に加えて、交流や安心を生み出したり商業や観光が豊かになったりというのが媒体効果になりますが、この3つの効果については、あえて記載しなくてもいいのではないのでしょうか。あえて記載するならば、緑がもつ機能を活かして「存在効果」「利用効果」、加えて「媒体効果」を最大化させるという表現が正しいかと思いますが。

事務局： 緑の質の向上についてはこれまで多く議論していただいております。また、脱炭素の取り組みを進めていくことが地域課題の解決にもつながっていくという視点を盛り込みたいと考えたのですが、緑以外の部分ではそれが盛り込めていません。その他とのトーンを合わせるためにも、おっしゃっていただいたとおり表現は整理いたします。

加我委員： 緑は、炭素固定をはじめとするCO<sub>2</sub>の吸収源としての効果と、それによる気象緩和でエネルギー消費を抑える副次的な効果と2つの側面がありますので、その点についても検討していただければと思います。

事務局： 他市の温暖化計画で、緩和策と適応策を分けておられる自治体もありましたが、本市では、温暖化対策では緩和策も適応策を分けずに記載し、適応策にあたる施策を抜粋し、努力義務である適応計画に落とし込んで整理をしておこうと考えています。

岩井田委員： 8ページにおいて、脱炭素型のまちづくりと記載されていますが、コンパクトシティについては検討したり、計画に位置付ける予定はあるのでしょうか。

事務局： 本市としてもコンパクトシティの大きな方向性はあるのですが、温暖化計画では記載が難しく、そのような視点は盛り込めていません。今後、脱炭素型のまちづくりをめざしていくなかで、施策としては難しいかもしれませんが、方向性として盛り込めるか検討してみたいと思います。

藤田部会長： ありがとうございます。時間に限りがありますので、他にご意見等ありましたら、後程お伺いさせていただきます。案件1は一旦これで終了させていただき、案件2に移らせていただきます。事務局よりご説明をお願いいたします。

#### 案件2「第2次計画の取り組み指標について」

事務局： 【資料2により説明】

藤田部会長： ありがとうございます。様々な視点より、委員の皆様よりご意見をいただきたいと

思うのですが、私から委員の皆様にお伺いしたい点があります。5ページのヒートアイランド対策と緑の機能を活かした脱炭素型のまちづくりの2つ指標ですが、分散型電源と緑被面積を指標として並べることについて、また、緑被面積については2030年度目標を2020年度で達成してしまっていたりしていますので、より良い指標がありましたらご提案もいただきたいと思いますのですがいかがでしょうか。

加我委員：市街地での緑被面積が課題となってくるかと思えます。全域だけでみるのではなく、地域別の緑被面積もみていくことで、市街地の緑被面積が増えていっているのかも把握できるのではないのでしょうか。

事務局：ありがとうございます。現在は、今ある緑を維持していく目標となっていますが、各地域としての吸収源はどうか、適応策としてどうかといった部分がありますので、どの地域で把握ができるか等を含め、検討させていただきます。

加我委員：もう1点ですが、1ページの再生可能エネルギーの普及拡大の指標に関連して、先程、様々な未利用地に太陽光発電設備を設置するとあり、ため池の水面貸しやソーラーカーポートと記載されていましたが、ため池にソーラーパネルを設置することが、本当に正しいのか、再生可能エネルギーの導入のためには必要ですが、森林やため池をソーラーパネルで埋めてしまっているのか、導入方法については十分に検討が必要ではないのでしょうか。

事務局：地元の方々がため池の維持管理にあたり、費用捻出が難しい現状があるなかで、水面貸しをすることで一定利益を生み出し、それが脱炭素にもつながるということで検討しているところです。ご指摘いただいたように、ため池全面をソーラーパネルで埋めることは正しくないと思えますので、地元の方々と協議し、ため池の機能は確保したうえで、可能な範囲で設置をすることで、一定の課題はクリアできるのかと考えています。

加我委員：森林やため池など、自然面に導入する際には慎重に進めていかなければなりませんので、少なくとも記載順はソーラーカーポートが先なのかなと思いました。景観形成や生物多様性などに配慮して進めていただければと思います。単一機能だけでなく、様々な視点から検討し、温暖化対策を進めていただくようお願いいたします。

藤田部会長：記載順を含め、環境に配慮していることが伝わるような表現などの工夫をしていただきたいと思えます。

小幡委員：評価方法について、達成状況をどう示すのか検討が必要かと思えますし、すべてを評価しなくても主なものを評価すればいいのではないかと思います。評価方法については明記されるのでしょうか。

事務局：後程、評価方法についてはご説明させていただきますが、事業計画において細かい施策の進行管理をしていく予定です。

安田委員：5ページの、その他の把握すべき指標で猛暑日数とありますが、月別の平均気温でも指標になり得ないかと思ったのですが、いかがでしょうか。

事務局：事務局でも検討した部分であり、平均気温や熱帯夜などの複数の指標で把握してもいいのかと思えますので整理させていただきます。

谷本委員：資料2を見ていると、各部門の温室効果ガス排出量は減少傾向にありますが、7ページのその他部門における温室効果ガス排出量は増加しています。その他の表現では、一体何か原因で増加しているのかがわからず、何を対策すればいいのかがわかりません。その他の中でも代表的なものをあげてから、その他部門とした方が進行管理もし

やすいのではないのでしょうか。

事務局： 廃棄物処理やフロン等の非二酸化炭素由来の部分が他の部門にあたります。約9割がフロン漏洩によるものなのですが、対策としては冷媒を入れ替えるといった取り組みが中心となります。表現については検討させていただきます。

藤田部会長： 他にご意見等なければ案件2は以上とさせていただきます。続いて、案件3について、事務局よりご説明をお願いいたします。

### 案件3「第2次計画の構成及び推進体制・進行管理について」

事務局： 【資料3-1、3-2、3-3により説明】

藤田部会長： ただ今の事務局からのご説明について、意見等をお伺いする前に、小幡委員より計画の進行管理についてご質問があったかと思いますが、いかがでしょうか。

小幡委員： 例えば、他市では、上昇することが良い指標については3年くらいの実績をみて、達成度合いを決めて評価していたりしますが、評価方法やその評価方法を計画の中で記載する予定なのかをお聞きしたいと思います。

事務局： 指標をどう評価していくのかは記載できていませんが、他市の評価方法については他市の事例も確認し、検討いたします。

谷本委員： 資料1に戻りますが、6ページに既存の技術等を導入して地球温暖化対策につなげていくと記載されていますが、ガソリンを水素に切り替える技術を開発し、製品化につなげていたり、電気事業者に役立つ製品の開発等枚方市内にも省エネルギー、省CO<sub>2</sub>につながる製品開発をされている市内事業者もおられますので、枚方市からそのような技術や製品を発信していくといった表現を入れていただき、このような取り組みを進めていく流れを作っていただければと思います。

事務局： おっしゃっていただいたような技術や製品を支援していくことは、とても重要だと考えています。市内事業者の取り組みをSNS等を活用して周知していくことを考え、6ページにその旨を記載しましたが、表現については再度検討したいと思います。また、そのような取り組みをされている事業者の情報提供をいただき、発信していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

今堀委員： 地球温暖化対策を推進していくためには、市民の方々が情報を得られるリアルな場が必要かと思いますが、いかがでしょうか。

事務局： 枚方市では、NPO 法人ひらかた環境ネットワーク会議に委託し、環境情報コーナーという情報発信の場をもっており、ここを拠点としつつ、今後この機能を強化していく必要があると考えています。

今堀委員： ありがとうございます。既に拠点があるのであれば、皆さんで育てていただければと思います。

藤田部会長： 環境情報コーナーは廃校を活用されていて、不要になった子供服や玩具のリサイクル、昆虫の標本や、自然関連の活動報告の展示等がされています。小さな活動かもしれませんが、私はとても重要な場だと感じています。事務局の方々も、拠点を広げていくような取り組みをしていただければと思います。

小幡委員： 藤田部会長、今堀委員がおっしゃられたご意見はとても良いと思います。資料3-2の1ページに計画の推進体制が示されていますが、脱炭素先行地域のご説明の際に、地域×防災のイメージがあったかと思いますが、市民、市民団体等で構成する（仮称）脱炭素まちづくり協議会みたいな組織を作って取り組みを進めていくと明言しておけば、大変な事業ですが本気度も伝わるのではないのでしょうか。

事務局：新たな組織を作るかは検討が必要ですが、ひらかた環境ネットワーク会議や地球温暖化対策協議会、EV車普及のための連絡協議会等において、市民、市民団体、事業者が連携を強化していく体制は必要ですので、イメージ図について、その部分を書き加えたいと思います。

加我委員：枚方市環境行政推進本部の位置づけを教えてください。

事務局：既にある組織なのですが、教育委員会、水道局、病院事業者など、組織は違っても、一体となって取り組みを推進するための組織であって、市長がトップとなり各理事者で構成されています。

加我委員：ありがとうございます。しっかりと取り組んでいただければと思います。

麻生委員：クロスセクター的な考え方で、地球温暖化はもちろんのこと、生物多様性、防災、環境教育も同時に解決していこうというSDGsの考え方で検討をお願いしたいと思います。また、緑の質の向上のこの記載が弱いと感じ、少し残念に思いました。次に、森林は、生物多様性や私たちの生活面でも、大切な役割を果たしていることを伝える環境教育の場は重要だと思います。交通に関しては、EV普及も大切ですが、枚方市で交通に不便な場所もありますので、シェアサイクルの導入についても検討してはどうでしょうか。次に、プラスチックを含むごみ削減については記載されていますが、生ごみの削減や堆肥化の記載がないことが少し気になりました。生ごみを削減することは、焼却の際に排出されるCO<sub>2</sub>削減につながり、とても重要だと思います。次に、プラスチックはリサイクルではなく、そもそも使わない生活へ変えていくことが私は必要だと思います。最後に、新築建築物に太陽光パネルを設置するだけでなく、コンクリート部分をできるだけ少なくするように木材を利用することも検討が必要と感じました。

事務局：資料1の10ページで示したように、脱炭素の視点で、交通や防災など、各事業が影響し合うことで波及効果を生むことを表現しましたが、おっしゃるように、生物多様性や環境教育のクロスもありますので、計画の中でどう表現するのかアドバイスいただければと思います。自転車利用の促進については、7ページに記載をしていますが、シェアサイクルについては事業計画に盛り込んでいけるか、検討していきます。生ごみ削減は、4Rの取り組みを推進する中で食品ロスに取り組んだり、プラスチックについても、リサイクルだけでなく削減やポイ捨てをしないなど、様々な視点から取り組みを実施していますので、そのような取り組みがわかるよう表現を修正させていただきます。新規の建築物ですが、再エネ電源やZEB、ZECの導入に特化して記載をしていますが、木材利用については関係部局と協議して、盛り込むことができれば盛り込んでいきたいと思っています。

藤田部会長：ありがとうございます。誠に勝手ではございますが、本日ご意見をいただいている委員の皆様にお伺いをさせていただきたいのですが、豊高委員、岩井田委員、益田副部会長いかがでしょうか。

豊高委員：少し違和感があったのが、基本方針から施策があって目標云々というのは民間ではやりません。基本方針があって達成のための評価項目を決めて、そのために施策を進めていくと、議論がフォーカスされて施策として適切なのかがよくわかります。どのような施策を実施し、どのような姿をめざしていくのか、市民に明確にしていいただければ、わくわくして取り組むことができるのではないのでしょうか。

岩井田委員：農業分野で新たな品種を普及促進してくなど、市としての取り組みはあるのでしょうか。



か。

事務局：農業での食料確保や品種改良については、記載が難しいかと思いますが、検討させていただきます。

益田副部長：既存のものでなく、新しい取り組みによる目標設定をしていくことも必要だと思います。記載されている主な施策は、既にあるものや取り組みがある程度進んでいるものが多い印象を受けました。太陽光発電とエネルギー削減がセットになってしまっていて、コージェネレーションシステムや下水の排熱などといった熱の再利用、規模の小さい風力発電ならば太陽光発電と組み合わせることも可能です。そのような多様なエネルギー源を自分たちで作っていくような考え方もありかと思います。新しい取り組みを盛り込んでいただければ、より良い計画になると感じました。

事務局：資料1の3ページにおいて、水素利用をしていくと記載していますが、数年すれば新たな取り組みも出てくるかと思いますが、見直し時期には、多様な再生可能エネルギー導入について柔軟に検討していきます。

益田副部長：行政の立場も理解しますが、新しい取り組みを皆でやってみようという視点を少しでも入れていただければと思います。

藤田部長：ありがとうございます。では、案件3は以上とします。他にご意見等がありましたら、事務局にメールをいただければと思います。最後に、案件4について、事務局よりご説明をお願いします。

#### 案件4「今後のスケジュールについて」

事務局：【資料4により説明】

藤田部長：ありがとうございます。ただいまのご説明について、ご意見等はございますか。

【意見等なし】

他にご意見がないようですので、案件4は以上とさせていただきます。本日の案件はすべて終了しましたが、事務局から連絡事項はありますでしょうか。

事務局：今後のスケジュールでもご説明したとおり、3月15日に第7回部会、3月25日に第3回全体会を開催させていただきますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

藤田部長：それでは、本日はこれで閉会します。ありがとうございます。

#### 【その他意見】

大石委員：水素の取り組みは、今後推進していく認識でいいでしょうか。

事務局：FCV車の寄贈を受ける予定があり、公用車として使用すると同時に災害時の非常用電源として活用するなど、水素利用を広げていきたいと考えています。

大石委員：歩行者、自転車に優しいまちづくりの推進とは具体的にはどのようなものでしょうか。

事務局：自転車利用に関する計画を策定しており、自転車専用道路の整備等、自転車を利用しやすい取り組みが計画の中に入ってくるかと思っています。

大石委員：市内一世帯あたりの年間電力消費量は、枚方市の総電力量を単純に世帯数で割った量で、企業も入っているのでしょうか。

事務局：企業の消費量も含まれています。それぞれの電力消費量がわかるようにしていこうといった動きがありますので、今後もう少し正確な消費量がつかめるかもしれません。

大石委員：我々が提供するデータになるかと思いますが、個人情報の問題等が解決されれば、情報提供もできるかと思っています。太陽光の自家消費量が増えることによって電力消費量は減っていくでしょうし、逆にEV車が普及すれば増えていくでしょうし、そのよう

なデータがあればいいですね。

事務局： いろいろな面でご協力をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。